

- 山形県の農業就業人口の45.3%は女性であるが、高齢化が進行しており、40歳未満の女性農業者はわずか2.1%のみ。**地域農業活性化のため若い女性農業者の育成**が必要。
- 若い女性農業者は孤立しがちで、**生産現場で女性が一層活躍できる環境づくりを支援し、女性の農業分野における活躍の促進**が必要。
- **若い女性限定の経営講座の開設。優良事例集の作成、広報。**
- 若い女性農業者が**ビジネスプランを作成 18名。経営力・営農意欲が向上。仲間づくりが進展。**

具体的な成果

目標を達成するための普及活動

1 若い女性農業者のビジネスプランの作成による経営力・営農意欲の向上

- 若い女性農業者のビジネスプランの作成を支援し、18名が作成
- ・ ビジネスプランの作成とプランの実現に向けた実践支援を通し、将来の地域農業をリードする役割を担う女性農業者の経営力・営農意欲が向上。仲間づくりが進展。



- 女性農業者の作業環境の整備
- ・ 農作業の負担軽減のため軽労化機材導入アシストスーツの改良を提案
- ・ 農業機械の管理・操作技術を習得
- 女性が苦手意識を持ちがちな機械作業を習得



2 農産加工品開発と直売所の販売力強化

- 既存の農産加工品の商品力向上
- 新商品の開発
- 直売所の目玉商品の開発
- 女性の活躍の場を確保



3 女性農業士の増加

- **受講生の中からも青年農業士が誕生**
- 平成27年度34名→平成28年度43名

1 若い女性限定の講座の開設

■ **ビジネスプランの作成を支援**

- ・ 講義とともにグループ討議や個別演習、「ビジョンコラージュ」の制作等女性が取り組みやすい講座の工夫
- ・ 先進的な女性農業者の視察研修
- ・ 先進的な女性経営者の基で、インターシップの実施
- ・ 女性限定の農業機械管理、操作研修
- ・ 生産現場でのアシストスーツの実証

■ **ビジネスプラン実現に向け、総合的な個別支援の展開**

- ・ 受講生毎に技術担当と経営担当の普及指導員を配置（1名は女性指導員）。

2 農産加工品の開発と直売所の販売力強化

- 「食産業王国やまがた」の実現へ向け、**農産物の加工品開発や農産加工実践者のスキルアップ**を支援。直売所の運営体制の支援。

3 地域で活躍する女性農業者を広く紹介

- アグリウーマン優良事例集の作成

普及指導員だからできたこと

- ・ 定期講座を補完する形で、受講生の相談、現地指導、ビジネスプランの作成支援等きめ細やかなフォローアップを実施。

山形県

輝くアグリウーマンの育成

活動期間：平成28～30年度

1. 取組の背景

山形県の農業就業人口の45.3%は女性であるが、高齢化が進行しており、40歳未満の女性農業者はわずか2.1%のみであり、地域で若い女性農業者は孤立しがちである。

一方、農業発展のためには、消費者志向を踏まえた生産・販売、加工品開発等、女性ならではの柔軟な発想による農業経営の展開が必要である。

そのため、女性農業者の活躍が不可欠であり、経営管理能力の向上を支援するとともに、関係機関と連携し、女性農業者が活躍しやすい環境の整備と女性農業者の増加に向けた取組み及び育成が必要である。

2. 活動内容

(1) 市町村等担当者会議の開催

市町村・農協・農業委員会・やまがた農業支援センター・農林大学校研修部等を参集し、新規就農者（若い女性農業者を含む）の情報共有を図り、連携した支援を実施した。

(2) 若い女性限定の講座を開設

①アグリウーマン塾の開催

県全域から概ね40歳未満の意欲的に経営に参画している若い女性農業者を募集し、年5回のビジネスプランを作成する講座を開催した。講師は、中小企業診断士に依頼した。

・女性農業者の成功事例の発表を題材にしたグループによる討議や個別演習、「ビジョンコラージュ」の作成等女性が取組みやすいよう講座内容を工夫した。

・イメージしやすいように先進的な女性農業者の視察研修を実施した。
・定期講座のほか、オプション研修として先進的な女性経営者の基でのインターンシップを盛り込んだ。

②女性限定の農業機械管理、操作研修を開催した。

③軽労化機材の導入検討

ぶどう栽培を行う女性農業者にぶどうの房



づくり作業を軽減（腕・肩・首）するため、アシストスーツの実証を行った。

普及課では、受講者毎に技術担当と経営担当の普及指導員を支援担当者として配置（うち 1 名は相談しやすいように女性指導員を配置するよう配慮）し、支援体制を整備した。ビジネスプランの作成を支援するとともに、その実現へ向け、総合的な個別支援を展開した。

（3）農産加工品の開発と直売所の販売力強化

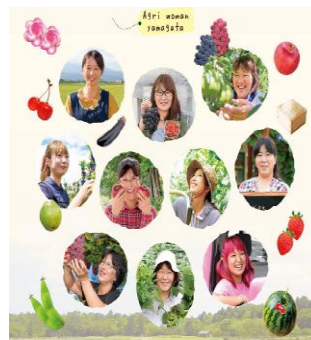
受講者には農産加工等の実践者・志向者が多く、加工品開発やスキルアップを支援した。また、直売所の運営体制を支援した。農産加工品の試食・求評を行った。



（4）地域で活躍する女性農業者を広く広報

女性の新規就農者を増加させるとともに、女性農業者の新たな事業に取り組む意欲を引き出すため、地域で生き活きと活躍する女性農業者の優良事例集を作成し、県内の高校や大学、市町村、農協、首都圏で開催される就農相談会で配布した。

また、県の農業情報サイト「やまがたアグリネット」にも掲載した。



3. 具体的な成果

（1）関係機関の連携

情報を共有することにより、より効率的・効果的な支援が可能となった。

（2）若い女性農業者のビジネスプランの作成による経営力・営農意欲の向上

18 名がビジネスプランを作成し、プランの実現に向けた実践支援を通し、将来の地域農業をリードする役割を担う女性農業者の経営力・営農意欲が向上した。若い女性農業者同士の交流が図られ、仲間づくりが進展した。

農作業の負担軽減のため、アシストスーツの改良を提案した。また、女性が苦手意識を持ちがちな農業機械の管理・操作技術を習得し、農作業の負担軽減の一助となった。

（3）農産加工品開発と直売所の販売力強化

既存の農産加工品の商品力の向上が図られ、新商品も開発された。また、直売所の目玉商品の開発等がなされ、女性の活躍の場が確保された。

（4）女性農業士の増加

地域のリーダーとなる女性農業士が 34 名から 43 名と増加した。受講生

からも青年農業士が誕生した。

4. 農家等からの評価・コメント

受講生が個々の経営状況に合わせて分析や計画が行えるようにサポートしてもらいました。宿題やグループワークなどで積極的に学べますし、農業に取り組む同世代の女性たちと出会えたことも糧になっています。やりたいことをどう実現していくのか思考できるようになったと思います。

(受講生 米沢市 伊藤倫子氏)

5. 普及指導員のコメント

専門家による経営指導は難しいのではと不安に思う中で講座が開催したが、熱意ある指導と多様な立場の受講生同士の交流を通し、若手女性農業者が積極的に経営管理に取り組んでいく姿勢の変化が印象的な研修だった。管内でも、事前の課題作成学習会や個別の専門家派遣を通したフォロー体制を取り、具体的なビジネスプラン作成に結びつけることができた。今後も若手女性農業者対象の入門講座を継続し、県全体の研修等と連携した支援を継続したい。

(置賜総合支庁農業技術普及課 プロジェクト推進専門員 是川邦子)

6. 現状・今後の展開等

(1) 若い女性限定の講座の開催を継続

引続き、アグリウーマン塾を継続開催し、地域の核となる若い女性農業者を育成・確保していく。

昨年度の修了生に対し、フォローアップ研修会を2回開催し、作成したビジネスプランの進捗状況を確認するとともに、ビジネスプランを見直し、交流を深める。

(2) 中学2年生に対し、農業の啓発パンフレットを作成

将来の職業を考える「キャリア教育」のタイミングとなる中学2年生向けに、生き生きと活躍する女性・青年農業者の姿を発信することで、農業への理解を深めるとともに、農業が「魅力的な職業」であることを伝え、将来の職業の選択肢の1つとして「農業」を考える契機となり、新規就農者の拡大につなげる。